



はなのき

神坂小学校だより No.11 2024.1.24



「やる気」に気づき価値づける

校長 伊藤 博章

明けましておめでとうございます。昨年は本校の教育に、温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度もいよいよ残り2ヶ月となりました。この時期は「1年間のまとめ」と同時に「新学年への準備」の時となります。「まとめや準備」といっても、特別なことを行うわけではありません。日常の学習や家庭・学校での自分の仕事を責任もって果たすことが、「まとめ」や次への「準備」となってきます。毎日の学習や生活をさらに充実させるよう、レベルアップシートを活用しながら子供たちと共に取り組んでいきたいと考えています。

教員をはじめ、大人は子供の成長を願い、次々と「課題」を決めて（決めさせて）取り組ませることが多いです。その「課題」の設定の際に「マイナス面」ばかりに目を向けさせてしまうと、自分自身の「よさ」に気づくこともできないまま、自信を失い、やる気も低下します。自分の「よさ」に気づき、自信をもたせ、次へのエネルギー（自分自身で「課題」を見つけ取り組む力）の原動力にするためにも、まずはこの1年で「できたこと」や「できるようになったこと」をはっきりさせることを大切にしたいです。

子供たちは、どの子も「よくなりたい」と願っています。「勉強が分かるようになりたい」「運動ができるようになりたい」「人の役に立ちたい」など、「～したい」「～できるようにになりたい」と常に向上心をもっていきます。これまでの子供たちの姿からも、そんな思いが強く伝わってくるものが多くありました。しかし時には、そんな思いに反して、うまくできずに自信をなくすことや、思いが相手に伝わらずに投げやりになったりすることもあります。その結果だけを見ると「失敗」かもしれませんが、何かを「しよう」と考えて行動できたことは、とても価値のあることです。また中には、「したい」という気持ちがありながらも、行動を起こせない子もいるかもしれません。そんな子供たちの「やる気」に気づいたり、価値づけたりするのが私たち大人の役割です。

子供たちの「やる気」に気づくためには、次のような手立てが有効だと私は思います。

- ・ 行動の結果だけでなく、その過程に注目し、よさを見いだすこと
- ・ 子供の行動の意味や価値を、大人が気づいて価値づけること
大人が当たり前と思っていることでも、子供の目線に立ってみると、見方が変わります。
- ・ 子供の価値ある行動は、即その場でタイムリーに認めること
その場でないと効果はありません。後でほめても、子供は忘れていきます。
「ありがとう」のひと言が、子供の自己肯定感を高め、やる気を引き出します。
- ・ 子供の行動に対して、自分の気持ちを伝えること
「お手伝いががんばったね」よりも「お手伝いしてくれて、うれしかったよ」

残りの2ヶ月、子供たちの成長を願い取り組んでいきます。ご支援、ご協力をお願いします。

【お知らせ】 今年度の卒業証書授与式（3月22日）の来賓につきましては、学校運営協議会の方々に依頼をさせていただく予定です。後日、案内状を送らせていただきますので、よろしくお願い致します。